

事業所名

児童発達支援・放課後等デイサービスKids Lab.

支援プログラム

作成日

令和6年

4月

1日

法人（事業所）理念		つながりを広げる児童発達支援・放課後等デイサービス			
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの特性を捉えて適切な目標設定を検討し、マンツーマンだからこそ手厚い個別支援に繋げる</li> <li>近隣運営施設及び地域との連携により、関わるすべての人の繋がりを広げられる機会を提供する</li> <li>高頻度の定期的な面談と振り返りにより、成長速度に合わせた適切なケアの再検討を繰り返し、手厚いケアに繋げる</li> </ul>			
営業時間		学校開業日 10時00分から 17時00分まで 学校休業日 10時30分から 16時30分まで	送迎実施の有無		あり なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	<p>健康状態の把握：子どもが健康で安全な生活を送れるように支援し、常に状態確認を行い、それに応じた対応を行います。意思表示が困難である子どもの障害の特性及び発達過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の些細な異変に気づけるように注意深く観察します。</p> <p>健康の増進：睡眠、食事・排泄等の基本的な生活リズムを身につけられるように支援します。また、健康な生活を営む力の育成に努めます。口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下・姿勢保持等に関する支援を行います。さらに病気の予防や安全への配慮も行います。</p> <p>リハビリテーションの実施：日常生活や社会生活を送れるよう、それぞれの状態に合わせて身体面、精神面、社会面における必要な訓練を行います。</p> <p>基本的な生活スキルの獲得：自分で身の回りのことを清潔にしたり、食事、着替え、トイレなどの日常生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援を行います。</p> <p>構造化等による生活環境を整える：子どもが生活の中で遊びを通して様々なことを学び、主体的に活動できるよう環境を整えます。また、障害特性に配慮し、時間や空間を分かりやすく構造化することも含まれます。</p>			
	運動・感覚	<p>姿勢や動作・運動機能の基本的技能の向上：日常生活に必要な基本的な動作と応用的な日常生活の動作をスムーズに行えるように、姿勢を保ったり、四肢や体幹などを動かしたりする能力を高めるよう支援してまいります。また、関節が固くなったり変形するのを防いだり、残存している筋力を維持・増強することも含まれます。</p> <p>姿勢保持と動作・運動機能の補助手段の活用：姿勢を保ったり身体を動かすことが難しい子どもに対し、姿勢を保持する装置や器具など様々な補助用具を用いて、姿勢保持・動作ができるように支援してまいります。</p> <p>移動能力の向上：子どもが自分の力で移動したり、歩行器や車いすなどを使いながら、日常生活に必要な移動能力を高めるための支援を行いません。</p> <p>保有する感覚の活用：視覚、聴覚、嗅覚等の特殊感覚や触覚、振動覚など体制感覚、内臓感覚などを十分に使えるよう遊びなどを通して支援します。</p> <p>感覚の補助及び代行手段の活用：視覚や聴覚などを使いやすくするために、眼鏡や補聴器のような感覚機能に対する補助機器を適切に使えるように支援します。</p> <p>感覚の特性への対応：子どもが持つ感覚の過敏さや鈍感さを理解し、それに合わせて環境を調整したり、適切な支援を提供してまいります。</p>			
	認知・行動	<p>感覚や認知の活用：療育活動を通して視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚それぞれの五感を養い、子どもの認知機能の発達を促します。</p> <p>知覚から行動への認知過程の発達：子どもが周囲の環境から情報を受け取り、必要な情報を選び出し、それに基づいて適切な行動をとれるよう支援します。</p> <p>認知や行動の手掛かりとなる概念の形成：子どもが周りの環境を理解し、行動に移すために必要となる能力を育てるために個々に合わせた日常生活行動が取れるよう一日のスケジュール管理などを行い、時間や空間をコントロールできるよう支援します。また物の形や使用方法、色の変化などを理解・活用できるように支援します。</p> <p>数量、大小、色等の習得：数あそび、大小の区別や、色分けあそびなどを行い、子どもが数や大きさ、重さ、色の違いなどを理解し、活用できるように支援します。</p> <p>認知の偏りへの対応：子どもの認知特性を理解し、施設内の表示（トイレの表示など）や絵カードなどを利用し情報処理できるよう支援します。また、こだわりや偏食など、個々の特性に応じて環境を調整し支援します。</p> <p>行動障害への予防及び対応：個々に応じて感覚や認知の偏りなどを把握し、適切な行動が取れるように支援します。</p>			
	言語コミュニケーション	<p>言語の形成と活用：具体的な物品や体験と言葉を結びつけるなどして、子どもが言葉の意味を理解し、自ら進んで言葉を発するよう促します。</p> <p>受容言語と表出言語の支援：子どもが話し言葉や文字、記号などを使い、相手の言いたいことを理解したり、自分の考えを伝えたりできるように支援します。</p> <p>人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得：一人ひとりの状況に合わせた場面で、他者とのやり取りを通じて、一緒に物事に注目するなどのコミュニケーション能力の取得・向上を促します。</p> <p>指差し、身振り、サイン等の活用：子どもが周囲の状況を理解したり、自分の意思を伝えたりできるように、指差しや身振り、サインなどの非言語的なコミュニケーション手段を使用します。</p> <p>読み書き能力の向上のための支援：子どもの特性に合わせた方法で、読み書きの能力を高めます。</p> <p>コミュニケーション機器・手段の活用：子どもが周りの状況を理解したり、自分の気持ちを伝えたりすることをスムーズに行えるよう、手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現方法や、文字や記号、絵カード、機器など、様々なコミュニケーション手段を提供し、適切に選び使えるように支援します。</p>			
人間関係社会性	<p>アタッチメント（愛着行動）の形成：子どもが周囲の人と安定した関係を築けるよう、身近な人と親密な関係を育み、わずかなサインや反応を大切にされた療育環境の提供と、信頼関係を築けるようサポートを行います。</p> <p>模倣行動の支援：子どもが遊びなどを通じて他人の動きを真似ることを促し、それによって社会性や他人との関わり方を学ぶことを援助します。</p> <p>感覚運動遊びから象徴遊びへの支援：感覚や体を動かす遊びから、物に見立てたり、ごっこ遊びなどを通して、社会性を育む支援を行います。</p> <p>一人遊びから協同遊びへの支援：周囲に関心を示さない一人遊びの状態から、徐々に他者と関わる遊びへと段階的に促し、最終的には役割分担やルールのある遊びを通して社会性を育む支援を行います。</p> <p>自己の理解とコントロールのための支援：子どもが自分の得意なこと、苦手なこと、行動の特徴などを理解し、感情をコントロールできるよう、大人のサポートを通じて支援を行います。</p> <p>集団参加への支援：子どもが集団活動に参加するためのルールや手順を理解し、遊びや活動に積極的に参加できるようにサポートします。</p>				
家族支援	<p>ご家族の子育てに対する悩みなどに寄り添いながら、日々の成長を共有し、課題や方向性について一緒に考えながら、ともに前向きな療育が行われるようご家族の支援も大切にしています。</p>	移行支援	<p>子どもの成長過程に応じて関わりのある各機関と情報共有・連携を行い、繋がりを大切にしたい一貫性のある療育を長期的に行います。</p>		
地域支援・地域連携	<p>地域イベントに参加し理解や連携等の繋がりを深め、地域全体で支援を行えるようにします。また、近隣施設との定期的な関わりや合同イベントにより、同世代のお子さまの繋がりを持つことで、ネットワークを広げるきっかけを作ります。</p>	職員の質の向上	<p>定期的に研修を行い、様々な専門職の観点から意見を出し合い、チームでの療育を行います。また、職員自ら個人目標と目標達成に向けた具体的な行動を設定することで、職員・事業所ともに質の高い療育支援を目指します。</p> <p>（新入職員研修 スキルアップの為の研修 虐待防止や身体拘束、感染症対策等の研修 防災に関する研修等）</p>		
主な行事等	<p>各月：誕生会、避難訓練          春：お花見、遠足 夏：水遊び、夏祭り 秋：紅葉狩り、ハロウィン 冬：クリスマス会、節分          ご家族参加型のイベント</p>				